



労連の未来を切り拓くために、 組織拡大を勝ち取ろう！

JR東海労連第3回定期大会開催

JR東海労働組合連合会（JR東海労連）は2月11日、名古屋市内で第3回定期大会を開催しました。昨年結成されたJRSE労働組合（JE労）の加盟申請が12月24日に承認され、今大会から3単組が参加しました。議長に山内代議員（JS労）を選出しました。

淵上委員長は、挨拶で「今衆議院選挙で自民党が圧勝したのは、国民が雰囲気や情勢に流された結果である。流されないために、労働組合の闘いが必要である。この間培った労働者魂を發揮し、組織拡大を勝ち取ろう」と、訴えました。

質疑では、「年間休日120日獲得の闘いで、会社を糾すために労働委員会に申し立てを行った」「若いサービック労組の組合員がパワハラを受け、相談があった。その後、本人に対し、サービック労組の役員が取り囲んでの嫌がらせがあり、脱退を決意した。本人を支え共に闘う」「浜岡原発のデータ改ざんが取り沙汰されている。25年前にも企業の不祥事が相次ぎ、新聞投稿をした。その時に労働組合は何をしているのかを問題にした」「衆議院選挙は、中道の敗北というよりも、立民の敗北である」「会社のレクに参加したが、他の社員と接触しないように管理者が最後まで付きまとった。私たちが相当脅威である」などの発言が出されました。



退任された役員の方皆さん

本橋事務局長は、答弁で「サービック労組を脱退した組合員の勇気に学ぼう。パワハラは絶対に許さない。毅然とした態度で臨む。JR総連に加盟していたときは、JR総連の許可を得ながらであったが、今ではやりたいことは自由にやれる。更なる組織拡大を勝ち取ろう」と、訴えました。

役員改選では、淵上委員長以下新役員を選出しました。